



マイコプラズマ感染

皆さん一度は耳にした事のある病ではないでしょうか？

発熱・咳・痰を主な症状とする為、初期段階では 通常の「風邪」として認識されやすいのですが、一部の抗生剤を服用しても症状が改善しなかったり、肺炎を併発することにより（⇒マイコプラズマ肺炎）、この病にかかっていることがわかる場合も珍しくはありません。

この病は以前まではオリンピックの年に流行るとされていましたが、近年は毎年同様に流行します。寒い季節を迎えるにあたり、風邪やインフルエンザと同様に増加します。マイコプラズマ感染症という病を知り、罹患しないよう十分注意しましょう。

（症状）発熱、咳、咽頭痛などの風邪症状を主症状とします。

5歳～15歳くらいの年齢の方がかかり易いとされていますが、大人もかかります。

（検査）マイコプラズマ感染症が疑われる場合、医師の判断で検査を行います。抗原検査、抗体検査等で診断を行います。この他に血液検査による白血球数・CRP値の所見や、胸部レントゲンの撮影によりマイコプラズマ感染症疾患の可能性の判断ができます。

（治療方法）マイコプラズマという病原体は細菌とウイルスの中間の大きさを持ちながら、普通の細菌とは異なり細胞壁を持っていません。よって、一般的によく用いられる細胞壁合成阻害剤であるセフェム系ペニシリン系抗生剤は効果がありません。マイコプラズマに対してはマクロライド系（商品名：クラリス・ジスロマック等）の抗生剤が有効です。これらを服用し、且つ十分な休養・栄養を取ることが大切なことと言えます。予防は一般の風邪などと同じく、うがい・手洗い、咳をしている人に近づかないことです。

ある程度症状が落ち着いている場合は外来でも治療することは可能ですが、高熱・気道の炎症・脱水症状が継続する場合は入院して治療をする場合もあります。

「ただの風邪だから」といって安易に自己判断せず、症状が通常と少しでも異なったり継続する時は、医師の診察を受け適切な治療を行いましょう。